

コレクション展 2020-3 :



COLLECTION 2020-3: ALTERING MATIERE

09 / 15 - 11 / 23

伊藤二子、今井俊満、佐野ぬい、太宰治、成田亨、エイドリアン・パイパー、橋本花、馬場のぼる、棟方志功

〈通年展示〉

マルク・シャガール (※)、奈良美智

※パレエ「アレコ」の舞台背景画について、特別鑑賞プログラムを開館中は毎日定時上映

①10:30 - ②12:00 - ③13:30 - ④15:00 -

主催：青森県立美術館

〒038-0021 青森市安田字近野 185

TEL 017-783-3000 / FAX 017-783-5244

MAIL bijutsukan@pref.aomori.lg.jp

<http://www.aomori-museum.jp>

開館時間：9時30分～17時 ※入館は16時30分まで

休館日：10月12日[月]、26日[月]、11月9日[月]

観覧料：一般510(410)円／大学生・高校生300(240)円／中学生・小学生100(80)円

※()内は20名以上の団体料金 ※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

青森県立美術館 
AOMORI MUSEUM OF ART

コレクション展 2020-3: ふるえる絵肌 COLLECTION 2020-3: ALTERING MATIERE

2020年度のコレクション展第3弾。今回は「ふるえる絵肌」と題し、作品表面に現れる色や形といった質感—「絵肌（仏語：マチエール）」に着目してコレクション作品を紹介し、作品の「絵肌」を見つめることは芸術家の個性にふれること。写真や映像の発達にともないアイデアやコンセプトを重視する作品なども現れた今日、「絵肌」はバリエーション豊かに存在すると言えます。今回はそんな様々なマチエールすなわち「ふるえる絵肌」を手がかりに、美術とともに太宰治の文学作品を取り上げ、芸術ジャンルを越境したところから、作品という存在の魅力や奥深さについて考えます。

◎新規収蔵作品を紹介！

八戸ゆかりの伊藤二子や、弘前ゆかりの佐野ぬい等による近年収蔵した作品も紹介します。それぞれの「絵肌」を追求し、独自の絵画表現を切り拓いていった画家の軌跡を目撃してください。



佐野ぬい《記憶のマチエール》(2015)



橋本花《津軽風景》(1983)



エイドリアン・バイパー《Meat into Meat》(1968)



成田亨《ワイアル星人》(1967) ©Narita/TPC

◎芸術の秋、読書の秋！

仲睦まじく暮らす夫婦。ある日身体にできた吹き出物をきっかけに浮き沈む女心の機微を描いた太宰治の中篇『皮膚と心』（1939）。太宰文学の中でも屈指の「マチエール小説」の感ある本小説の世界観を展示することを試みます。

◎関連企画

担当学芸員によるギャラリートーク

展示解説を美術館 youtube チャンネル上で公開します。

公開日時：10月 予定

講師：奥脇嵩大（青森県立美術館学芸員）

◎イベント「じぶん鑑賞のすすめ～色々な見方を体験して、自分だけの発見をしてみよう～」

コレクション展の作品を見ながら様々な鑑賞方法を体験してみませんか。

（参加無料 / 要事前申込）

日時：10月31日（土）11:00-12:00 / 14:00-15:00

会場：青森県立美術館常設展示室

定員：各回10名

申込先：青森県立美術館 教育普及担当（tel:017-782-1919）

【予告】企画展「阿部合成展」会期：2020年11月28日（土）～2021年1月31日（日）



青森県立美術館 
AOMORI MUSEUM OF ART

【車】 JR新青森駅から約10分、青森駅から約20分、青森空港から約20分
【バス】 青森市営バス | 青森駅前（6番のりば）から「三内丸山遺跡行き」乗車、「県立美術館前」下車（所要時間約20分）
ルートバスねぶたん号 | JR新青森駅東口（3番のりば）から乗車、「県立美術館前」下車（所要時間約10分）